

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1405
施設名	駒井町みんなの家
施設所在地	泊江市駒井町3-36-1
法人名	社会福祉法人純生喜泊会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光

プロジェクターから出る光から体を使った影絵を楽しむ（3・4・5歳児クラス）

<テーマの設定理由>

- ・園庭遊びで園児が自分達の影の形を見合って、形を変えるのを楽しんでいる様子が見られた。その際に保育者から太陽の光のことを伝えると、他の子も誘って巻き込んで楽しむ姿が見られた。
- ・12月にある映画の日にちなんで毎年映画館ごっこを園で実施している。それ以外でも夕方時折プロジェクターを用いて映像を流すことをしているが、たまたま準備中にお部屋に入ってきた園児がプロジェクターの前に立ち、自分の影の大きさが変わることを楽しんでいる様子を見て、後日全体での活動に取り入れた。

2. 活動スケジュール

- ①令和6年6月1日
- ②令和6年6月7日
- ③令和7年1月30日の3回実施。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・プロジェクター
- ・パソコン
- ・ゴープロ
- ・カッティングマシンで画用紙をくり抜いた型

4. 探究活動の実践

＜活動の内容＞

- ①プロジェクターの光を保育室のロールカーテンに映した状態で、体の影の形が変わったり、前後に動くことで大きさが変わる事を楽しむ（個別）。
- ②プロジェクターの光を保育室のロールカーテンに映した状態で、集団で影を移して手の形など他者の創意工夫を見ながら楽しむ。
- ③カッティングマシンでくり抜いた型で様々な形の影絵を楽しむ。ゴープロで撮影した画像・動画もプロジェクターで移して楽しむ。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

もともと太陽光の影で遊んでいた様子も見られたこともあり、体を動かすとより大きく自分の影の動きの変化が見ることが出来ており、楽しむ様子が見られた。

初めは個別での楽しみであったが、集団での活動をすることで年長さんが手でちょうどややカエルを作ろうとしているのを見て年中・年小の子も真似をしており、遊びの幅が拡がっていく様子が見られた。お部屋にあった玩具の形を影にして楽しむ子もいたため、より影絵を楽しめるようにカッティングマシンで型をくり抜いたものを用意し、次の活動ではそれを用いて楽しむ様子が見られた。



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

初めは単色の光で自分の影を楽しんでいたが、プロジェクターで映す映像や影絵で使えるものを用意することで回を重ねるごとに様々な子どもたちの反応が見られた。今後も活動方法を工夫した上で続けていき、子どもたちからもっとこういうものが欲しいという情報を保育者がキャッチして活動に組み込めるようにしていく。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1405
施設名	駒井町みんなの家
施設所在地	狛江市駒井町3-36-1
法人名	社会福祉法人純生喜狛会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光

お泊り会の中で日中に感じられない光を感じよう（5歳児クラス）

<テーマの設定理由>

- ・5歳児のみのお泊り会で、初めて保育園で過ごす夜の暗い空間を利用し、光がより際立つような活動にすることで、親元を離れて過ごす寂しさを楽しみやわくわくに変えられるように活動を設定した。

2. 活動スケジュール

令和6年7月27日お泊り会にて実施。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・大型プール
- ・サイリウム
- ・プラネタリウムセット
- ・スピーカー

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ①ナイトプールとしてサイリウムをたくさん用意し、子どもの好きな色を選んで温水プールに入る。
- ②夜寝る前にプラネタリウムセットを用意し、天井にプラネタリウムのように光を浮かべる。その際、幻想的な音楽をスピーカーから流す。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

日中行っているプール活動の様子とは景色が全く異なり、興奮して泳ぐ子はおらず皆サイリウムの様々な色の光に見とれる様子が見られた。
眠る前にプラネタリウムセットのきれいな光を天井に映し、初めてのお泊り保育の夜に不安になる子はおらず、目を輝かせたり落ち着いてすぐに寝始めたりする子などポジティブな反応を皆が見せていた。
翌週に登園した子たちが年中・年少のお友達にお泊り会での楽しい経験を笑顔で話す様子も見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

夜という日中には経験できない環境がお泊り会では利用できるため、来年度はより多くの「光」を楽しめるようなプログラムを組んで子どもたちのわくわくする気持ちを育んでいきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1405
施設名	駒井町みんなの家
施設所在地	狛江市駒井町3-36-1
法人名	社会福祉法人純生喜狛会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光

パネルシアターでブラックライトを用いる事で光を感じよう（3・4・5歳児）

<テーマの設定理由>

- ・園庭遊びで園児が自分達の影の形を見合って、形を変えるのを楽しんでいる様子が見られた。その際に保育者から太陽の光のことを伝えると、他の子も誘って巻き込んで楽しむ姿が見られた。
- ・お誕生会や季節の行事でパネルシアターを用いて出し物を園児が楽しむ機会はあったが、クリスマス会でブラックライトの光を用いたパネルシアターを行う事で普段と違う雰囲気を楽しめるのではないかと考え活動に取り入れた。

2. 活動スケジュール

令和6年12月20日

クリスマス会にてパネルシアターをブラックライトを用いて実施する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・パネルシアター台
 - ・ブラックライト
 - ・クリスマス用パネルシアターセット
- 幼児クラス（3・4・5歳児）に対してクリスマス会としてパネルシアターを保育者にて行う。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

ジングルベルの保育者の歌に合わせてパネルシアターを見せる。ブラックライトでパネルシアターが光る事で、普段とは違った感覚でパネルシアターを見る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

普段のパネルシアター等の催し物をする際には隣の子とお話ししながら楽しむといった様子が見られるが、今回は雰囲気も違ったことで全員が真剣にパネルシアターに釘付けになる様子が見られた。

クリスマス会後も「どうしてサンタさんが光ってたの？」と不思議に思って保育者に声をかけにくる子もいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今まで園の行事として行っていた出し物（パネルシアター）に $+ \alpha$ の要因としてブラックライトを用いた。園児たちの反応も普段よりまじまじと見ている様子もあり、パネルシアター後も園児から光に関する興味を持った発言も見られたため、今後も光に関する活動を日々の保育に取り入れていく。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1405
施設名	駒井町みんなの家
施設所在地	狛江市駒井町3-36-1
法人名	社会福祉法人純生喜狛会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光

マグネットブロック遊びを通じて太陽の光に気付こう（全クラス）

<テーマの設定理由>

- ・園庭遊びで園児が自分達の影の形を見合って、形を変えるのを楽しんでいる様子が見られた。その際に保育者から太陽の光のことを伝えると、他の子も誘って巻き込んで楽しむ姿が見られた。
- ・マグネットブロックは以前から園にあり人気の玩具であったが、太陽の光がより反射するものを用意することで、普段のマグネットブロック遊びから光の気付きを多くの子が発見できるのではないかと考え活動に取り入れた。

2. 活動スケジュール

令和6年1月20日～1月28日

新しいマグネットブロック（マグキング）を自由遊びの玩具として導入し、太陽光の入る窓際にコーナーを設ける事で子どもたちがどのような遊びの発展を見せるか観察する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・マグキング マグネット

晴れの日の室内自由遊びで窓際にコーナーを設定する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・マグビルドで遊びたい子が集まり、自由に遊びを始める。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

遊びの中で今まで園にあったマグネットブロックと同じようにお家などの好きな形を作る子がいる中で、光の反射で床にきれいな色が映る事に気付いた園児が多く見られた。

車を作るのに夢中になっていた子も手を止めてマグビルドを片手に床や自分の服に光が映るのを楽しむ子や、できた車から床に光が反射する様子を覗き込むように夢中になって見る子もあり、周りの子に「きれいだね！」と声を掛け合い楽しむ様子が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

マグビルドで遊ぶ際、年長の子は光に気付いて遊ぶことよりも自分たちで作りたい大作を作ることに夢中であった一方、年少の子の方が一人遊びでじっくり遊ぶ中で光の反射に気付いて光に遊びを発展させている様子が見られた。また、マグビルド自体を覗き込んで風景の色の変化を楽しむ子もいたため、子どもの気付いた「きれいだね」という感覚を大事に、他の光を用いた活動でも興味の発展をさせていく。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1405
施設名	駒井町みんなの家
施設所在地	泊江市駒井町3-36-1
法人名	社会福祉法人純生喜泊会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光

食用色素が水に混ざっていく様子を観察する（4・5歳児クラス）

<テーマの設定理由>

- これまでの「光」をテーマにした活動から、「光」というものに関する興味関心が高まっていた。
- 様々な色のマグネットブロックを通した光の変化を楽しむ様子が見られたため、ライトテーブルを導入して様々な色の変化や様々な素材を用いて変化を楽しめるように活動に取り入れた

2. 活動スケジュール

令和7年2月25日～2月28日

①色水の変化の変化

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ライトテーブル 6台
- 食用色素（10色セット）1箱
- 水をいれたアクリルケース（水槽） 6箱

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

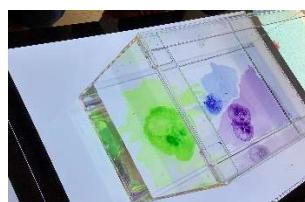
保育者が水を入れた透明なアクリルケースの中に、子どもたちが食用色素を落とす。液体が落ちる様子や水面に広がる様子がじっくりと観察できるように1つのライトテーブルに2～3人の少人数で活動を行う。色の選定は子どもたちが行う。液体が水の中に広がっていく様子や、他の色と混ざりあって行く様子を眺めたり、手でかき混ぜたりして活動を行った。

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・保育者がアクリルケースの中に、食用色素を垂らすと同時に、「わあ！」と思わず声をあげる子どもたち。「僕もやってみたい」と言い目を輝かせていた。

・液体を落としてから少し時間が経過すると、色が混ざり合ってきたことに気付いた子どもたちは「3つの色がもうすぐ1つになるよ！」と嬉しそうに保育者に伝える姿があった。

・青色の色素を落とした子は、「海みたいだね」と隣にいた友だちに話し、「魚がおよいでそう！」などとどんどんイメージを広げて楽しむ姿があった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・今回の活動を終えて、「またやりたい」という声が多く聞かれたため、夏の色水遊びで、色水に太陽の光を当てて同じような活動に取り組んでみたい。

・水の量や色素の量で、色の見え方や色の広がり方にも違いがあることことが分かったので、アクリルケースの大きさや色素の量を変えながら、さらに遊びを発展させていき、子どもたちの気付きを深めていきたい。

・子どもたちの声を聞き、自由な気付きを見守ると、大人にはない新たな発見があり子どもの声を聞くことの大切さを改めて感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1405
施設名	駒井町みんなの家
施設所在地	狛江市駒井町3-36-1
法人名	社会福祉法人純生喜狛会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光

ライトテーブルの上でスライム遊びをすることで光を感じる（3歳児クラス）

<テーマの設定理由>

- これまでの「光」をテーマにした活動から、「光」というものに関する興味関心が高まっていた。
- 様々な色のマグネットブロックを通した光の変化を楽しむ様子が見られたため、ライトテーブルを導入して様々な色の変化や様々な素材を用いて変化を楽しめるように活動に取り入れた。

2. 活動スケジュール

令和7年2月25日～2月28日

②光るスライムを楽しむ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ライトテーブル 6台
- スライム 12個（色違い）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

12色のスライムを用意し、子どもたちが好きな色を選択する。じっくりと観察できるように1つのライトテーブルを一人で使用できるようにして活動を行う。普段のスライム遊びとは違い、スライムを薄く広げたら光が強く見えたり、スライムで模様を作り映すなどライトテーブルならではの楽しみ方を見つける。

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・自ら好きな色のスライムを手にとり、ライトテーブルの上に伸ばしてみる。
- ・「ぐにゃぐにゃスライム、光ってる！」
- 「なに作ろう？」とそれぞれ気持ちを言葉にしながら遊び始める。



- ・見て、触って、じっくりとスライム遊びを楽しむ姿があった。スライムを薄く延ばすと光がよく当たる様子を保育者が見せると、「きれい～」「やってみよう」と真似して薄く延ばす様子が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・積極的に遊ぶ子を見て遊びだしたり、保育者と一緒に触れることで安心して少しづつ興味を示していったりと、一人ひとり違った形でライトテーブルの上のスライム遊びを楽しむことができていた。
- ・スライムなどの光を通しやすい素材は、光を当てた時の変化を感じやすい。寒天ゼリーなどでも代用し、更に遊びを発展させていく。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1405
施設名	駒井町みんなの家
施設所在地	狛江市駒井町3-36-1
法人名	社会福祉法人純生喜狛会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光
カラー砂を通して光を感じる

<テーマの設定理由>

- これまでの「光」をテーマにした活動から、「光」というものに関する興味関心が高まっていた。
- 様々な色のマグネットブロックを通した光の変化を楽しむ様子が見られたため、ライトテーブルを導入して様々な色の変化や様々な素材を用いて変化を楽しめるように活動に取り入れた。

2. 活動スケジュール

令和7年3月3日～3月7日

③カラー砂を通して光を感じる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ライトテーブル 6台
- カラー砂
- カラー砂を入れる容器

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ライトテーブルとカラー砂を使用することで、普段身近に感じている砂と光の融合を味わう。

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・砂は普段、園庭や砂場で遊ぶことがほとんどである。今回のように下から、光が当たったカラー砂は子どもにとっても保育者にとっても新鮮で、魅了されていた。保育者も子どもと一緒に繰り返し砂を集めたり、広げたり、跡をつけたりすることでその楽しさに共感しながら活動を進めていった。



- ・ライトテーブルの上に置いた砂に指で線を描くことを楽しむ。線を描くと底から光が差し込む様子に興味をもち、顔を近づけて観察する。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・砂場で砂を触る時とは違う感覚が味わえて、子どもたちも興味津々になる姿があった。目で見て、触って、色々な感覚を味わうことができた。
- ・カラー砂を使用する時は、安全面に配慮し、散らばってもすぐに片づけられるよう掃除用具をあらかじめ用意しておく。カラー砂に触れる際は、保育者がそばにつき、誤飲に気を付ける。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1405
施設名	駒井町みんなの家
施設所在地	泊江市駒井町3-36-1
法人名	社会福祉法人純生喜泊会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光

クリアブロックを通して光を感じよう（3・4・5歳児クラス）

<テーマの設定理由>

- これまでの「光」をテーマにした活動から、「光」というものに関する興味関心が高まっていた。
- 普段からレゴブロックを熱心に行っている園児が多く、ライトテーブルを導入して普段とは違ったブロックの変化を楽しめるように活動に取り入れた。

2. 活動スケジュール

令和7年3月3日～3月7日

クリアブロックを通して光を感じる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ライトテーブル 6台
- クリアブロック 1ケース

4. 探究活動の実践

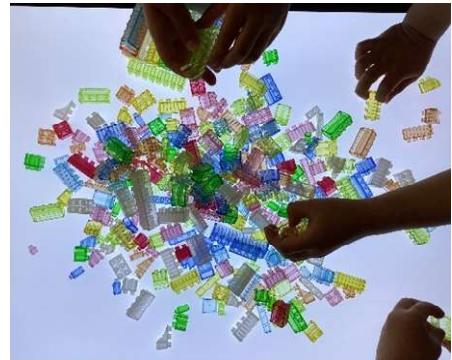
<活動の内容>

じっくりと遊びこめるように、1つのライトテーブルで1~2名で活動を行い、数か所に分けてクリアブロックをライトテーブルの上に配置する。

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・ブロック遊びが好きな男の子は、ライトテーブルの上に広がるブロックをみてすぐに興味をもち、作品を作り始める。下から光があたることで、遊びなれているブロックでも普段とは違った見え方がすることに気づく。

・ブロックを積み上げて東京タワーを作り、ライトテーブルの上に乗せる子がいる。「きらきら光ってる！」と満足そうな表情で光の遊びを楽しむ。「下のほうが光ってる」と高さによって光の具合が違うことも感じとっていた。



・電源ボタンがあることに気づき、じっと見つめている子がいたため、保育者はライトが付いたり消えたりする様子を子どもたちに見せる。光の点滅を感じ、「チカチカしてる！すごい！」と興味をもってのぞき込んでいた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・普段遊び慣れたブロックでも、光にあてる事で見え方や感じ方が変わり、子どもたちが新たな発見をする姿が見られた。

・一種類だけでなく、様々な大きさや素材のブロックを用意することで、違いを感じることができ、さらなる発見に繋がると感じたので、子どもたちと話し合いながら色々な素材を用意していきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1405
施設名	駒井町みんなの家
施設所在地	柏江市駒井町3-36-1
法人名	社会福祉法人純生喜柏会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光
感覚を楽しみながら、探索と発見をする（0歳児クラス）

<テーマの設定理由>

- ・乳児クラスで、朝の日差しが差し込む時間帯に、マットの上でうつぶせになりながら、窓から差し込む光の筋にじっと見入っていた。保育者がプラスチックの玩具を光に当ててみると、目でそれを追い、手を伸ばす姿があった。

2. 活動スケジュール

令和7年3月24日～3月27日

ライトテーブルの上で光を感じる素材の玩具で遊ぶ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ライトテーブル 1台
- ・クリアおはじき

夕方日が落ちてきてお部屋の電気を消すと薄暗くなる時間帯でライトテーブルを設置した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

保育者がライトテーブルを点灯し、まずはテーブルの上に何も置かずに、光の様子を観察する。少し慣れて慣れてきた頃に、ライトテーブルの上にクリアおはじきを置いて、玩具と光の融合を見て、触れて楽しむ。一人ひとりの子どもが自分のペースでじっくりと観察したり触れたりできるように、2人づつ活動を行う。保育者がそばにつき、まずはじっくりと光と触れあえるようにそばで見守る。

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)



・ライトテーブルを出すと、さっそく子どもたちが近づいてきて「これはなんだろう？」と興味を示す。

・ライトテーブルの上に手を乗せ、じーっと見めたり、叩いたりして感覚を確かめる。時々近くにいる保育者の方を向いて、「見て！」と嬉しそうな表情をみせる。保育者が、「光っているね」「きれいだね」と声を掛けるとほほ笑みながらさらに光に手をのばす。



・クリアおはじきをひとつずつ摘まんだり、置いたりを繰り返す。何度も繰り返し遊ぶ姿に、子どものわくわくが伝わってきた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・光を通じた素材に触ることで、「見る」と「触る」の感覚が連動するため乳児期の子どもにとって、とても刺激的な教材だと再確認した。
- ・ライトテーブルの上で素材を動かしたり、重ねたりすることで光の変化がおき、「どうなるかな？」「これはなに？」という探求心をくすぐることができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1405
施設名	駒井町みんなの家
施設所在地	狛江市駒井町3-36-1
法人名	社会福祉法人純生喜狛会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光

感覚を楽しみながら、探索と発見をする（1・2歳児クラス）

<テーマの設定理由>

- ・窓から差し込む光に、ブロックで作った作品を当て、保育者に「ほらみて！きらきら！」と声を掛けていて、ひかりに興味を持つ姿が見られた。
- ・1、2歳児クラスでもマグネットブロックの自由遊びを導入し、幼児クラスと同様に様々な色のマグネットブロックを通した光の変化を楽しむ様子が見られたため、乳児用のライトテーブルを導入してより光を感じられるような活動を実施した。

2. 活動スケジュール

令和7年3月24日～3月27日

ライトテーブルの上で光を感じる素材の玩具で遊ぶ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ライトテーブル 1台
- ・マグキング マグネット

夕方日が落ちてきてお部屋の電気を消すと薄暗くなる時間帯でライトテーブルを設置した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

保育者がライトテーブルを点灯し、まずはテーブルの上に何も置かずに、光の様子を観察する。少し慣れて慣れてきた頃に、ライトテーブルの上にマグビルドを置いて、玩具と光の融合を見て、触れて楽しむ。一人ひとりの子どもが自分のペースでじっくりと観察したり触れたりできるように、2～3人づつ活動を行う。保育者がそばにつき、まずはじっくりと光と触れあえるようにそばで見守る。

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)



・ライトテーブルを出すと、さっそく子どもたちが近づいてきて「これはなんだろう？」と興味を示す。電源を付けて光るだけでも皆わくわくして興奮している様子が見られた。

・ライトテーブルの上にマグビルドを置くと、様々な色にキラキラ光るマグビルドに興奮する様子が見られた。



・一つ一つマグビルドの色を変えながらじっくり眺め、重ねたらどんな色になるのか、形を作ったらどんな光り方になるのか楽しんでいた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・普段使っているマグネットブロックでも、光を通して見たり触ったりすることで、普段とは違った感性が刺激される様子が見受けられた。

・ライトテーブルの上で素材を動かしたり、重ねたりすることで光や色の変化がおき、次はどうしてみよう、といった探求心も育つため、今後も同じ活動を続ける事で新たな発見や次の活動への発展に繋がっていくと考えられる。